

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名

一号館)

事業所番号	0691900120		
法人名	株式会社カインド・ホーム		
事業所名	グループホーム沖郷		
所在地	南陽市若狭郷屋797-3		
自己評価作成日	令和3年11月11日	開設年月日	平成29年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でもある「やさしく・しんせつ・ていねいに」介護サービスの提供

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和3年12月6日	評価結果決定日	令和3年12月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在コロナ禍で地域交流が困難な状況にあり、2ヶ月毎に対面で開催している運営推進会議は、地域代表と情報交換する大事な会議となっています。事業所内に身体拘束・感染症対策・ハラスメント対策・高齢者虐待防止の推進委員会を設置し、職員はどれかに所属して自らのケアを振り返り職員会議で検証し運営推進会議で報告をしています。利用者に寄り添い現在の思いを聞き取り、コロナ禍で行動が制限されているが職員はレクリエーション・食事・会話・物作りなどに力を入れて支援し、得意な事や好きな事を発揮してもらい笑顔が多く見られています。家族等とは面会自粛期間もまめに連絡をとり利用者の様子を知らせて安心出来ると思われ、「入居者が中心」の穏やかな生活に繋がっている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが理念に日々近づけるように努めている。	「やさしく・しんせつ・ていねいに」介護サービスの提供という法人統一の理念に沿って職員は利用者を自分の身内のように接し、家庭的な雰囲気を中心掛けている。利用者に変化があれば全職員で共有して対応し、笑顔の絶えない「入居者が中心」の穏やかな生活に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で現在は交流はできないが、オレンジカフェ等を通し交流をおこなうようにしている。	地域の行事やイベントがコロナ禍で中止となり交流がなかなか出来ない状況であるが、運営推進会議の中で地域代表メンバーと情報交換している。市のオレンジカフェ連絡交換会に参加してコロナ禍で他事業所も中止していることを確認し、今後の再開を望んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2カ月に1度、運営推進会議・身体拘束委員会を開催しその都度報告、質疑応答している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区長・民生委員・家族代表・市職員・利用者代表に参加して頂き、2カ月に1回開催しており、意見交換やアドバイスなどを参考にしサービス向上に努めている。	2ヶ月毎に対面で開催し、メンバーから地域の情報を得る大事な会議となっている。身体拘束委員会他各委員会から実践状況の報告があり、法改正の話しや感染症対策シミュレーション動画の見学などをしてもらい意見交換している。8月には避難訓練も合わせて実施し、誘導や見守りの協力を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を取り、報告や相談を実施している。運営推進会議やオレンジカフェ連絡交換会に参加し関係を築いている。	市担当者から運営推進会議に出席してもらい情報交換し、疑問に思ったことはメールで連絡を取り合い、相談事は窓口に出向いて直接話すなど良好な関係を築いている。ワクチン接種にも協力を得てスケジュールを決めている。県より助成を受けて陰圧室(医療用陰圧テント)設置が完了し、職員は研修を行い感染症対策に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>2カ月に1度、身体拘束委員会を開催している。全員が身体拘束の知識を持ち拘束のないケアを行っている。必要な場合はセンサーコールを設置し転倒防止・離接の予防に役立てている。利用者の言葉を傾聴し本人に寄り添った声掛け・支援を行い自由にゆっくりと生活を送れるように努めている。</p>	<p>身体拘束に当たるかどうか職員会議で検証し、運営推進会議で報告している。職員は普段のケアで共有したいことは「気づきシート」に記入し、ヒヤリハット報告・事故報告はその場で聞き取りして再発防止に努めている。日中は玄関を開放し、非常口にはセンサーを設置して職員は見守りながら安全な暮らしを支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ケア会議や外部研修へ参加し虐待防止の知識を学び、今年度から保険・医療・福祉サポートサイトにて研修を行っている。委員会を立ち上げ勉強会などにも力を入れている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在該当ケースはないが必要性があれば家族への説明も考えている。各関係者に情報提供を出来るようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に解約事由等の説明を行っている。やむを得ない状況で入院になった場合にも家族の不安に答え、医療との連携を図り対応している。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月手紙にて情報共有し、日常生活の様子が伝わりやすいように写真を貼り付け対応している。面会なども窓越し面会を実施し家族との意見、要望に応えられる努力をしている。</p>	<p>コロナ禍で家族等との面会は窓越しになっていたが、現在は風除室でワクチン接種済み、人数、時間、事前予約などの条件を付けて対面での面会が可能となっており、利用者は久しぶりの対話を楽しんでいる。毎月担当職員から写真を添付したコメントを送付して様子を知らせており、家族等から安心出来ると喜ばれている。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月ユニット会議を行い意見や提案をする機会を設けている。その都度、個別に考えを聞き全員で試行している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は管理者を通して、毎日本社に報告し把握している。職員の家庭環境や事情を配慮し勤務形態や希望休の相談に応じ、働きやすい環境にしている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア会議と合わせて、事例検討会や動画研修を行いサービスの向上を図っている。	職員は年度始めに個人目標を立て管理者との面談で確認し、アドバイスをもらいスキルアップを目指している。身体拘束委員会他各委員会に職員は所属し、日頃のケアを毎月のユニット会議・ケア会議・事例検討会で話し合い検証している。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や情報交換会に参加し、意見や情報の交換を行いホーム以外の情報を取り入れ、良いサービスに繋がられるよう努めている。	コロナ禍で外部研修の殆どがオンラインとなっているが、数少ない対面での研修に参加した時は同業者と交流し情報交換している。疑問に思ったことは知り合いのケアマネジャーと電話で意見交換し、同じ事をやっていると確認することで安心に繋がっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安な事や困っていることを傾聴し、要望をできるだけサービスに取り入れ安心して生活ができるように配慮している。担当を決め話し易い環境づくりも行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に本人の情報をなるべく多く集めて、現在の問題点や生活課題を把握し、面談等で家族の不安や要望を聞ける機会を設け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の生活習慣を継続できるように、ニーズを把握し必要に応じて他のサービス利用が出来るように、状態の観察や職員間での情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来ることや出来そうなことを見つけ、洗濯物たたみ・干しや、能力に応じて実践して頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報共有を密に行い、毎月担当者が手紙を書き報告を行っている。詳しい状況が知りたい際には電話にて対応している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防のため面会は窓越しにて行い、機会を設けられるようにしている。手紙などで交流している人もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールやイベントにて利用者同士で楽しく過ごしてもらい、コミュニケーションを円滑に行えるように職員が間に入りサポートしている。レクリエーションなどでも交流を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退院の際には面会等を行い家族の不安や相談をいつでも受け入れられるように体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の望むことや考え方の違いを把握し、意向に添えるように職員で話し合い意思の統一を図っている。一人ひとりに合わせた方法で日々楽しく過ごせるように努めている。	入居前の情報を家族等や生活歴から得て、環境は変わっても今までの生活習慣が継続出来るように職員は支援している。利用者により添い現在の思いを聞き取り、コロナ禍で行動が制限されているがレクリエーション・食事・会話・物作りに力を入れ、得意な事や好きな事を発揮してもらい笑顔に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者からこれまでの生活歴などの情報収集を行っている。わからない事などは、都度家族に確認し情報は職員全体で共有しケアに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケースケア記録や排泄チェック表、水分チェック表などを毎日記録し温度版にて管理し、日々の会話や言動から精神状態等の把握努めている。		/	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月に1回モニタリングを行っている。課題を把握し機能維持を大切にプランを作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の行動や言動を細かく観察しケース記録や申し送りノートに残し職員全員で共有し、状況把握に努め課題が見つかった際には随時話し合い行い対応の修正をしケアを行っている。		/	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療によるマッサージを活用して楽しむ事が出来るように支援している。デイケアはコロナウイルスの影響で通えないが状況を見て再開を考えている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診察や往診している。受診報告書を作成し情報の共有を円滑にしている。緊急時なども電話連絡を行い指示もらう。		かかりつけ医とは通院や往診で連絡を密にし適切な受診に繋げ、出張の医療マッサージを受けている方もいる。看護師による日常の健康管理、24時間オンコール対応を含め医療連携体制を築き、また感染症やノロウイルス等発生時対応のため陰圧室の整備を行っている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週に2～3回勤務し、利用者の状況報告や相談を行い、指示を受けている。		/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院になった場合は面会や電話にて看護師やご家族様より情報収集を行い状況把握に努めている。体調等に変化がある際には主治医に指示を仰ぎ専門医を受診している。退院カンファレンスに参加し情報の共有やその後の生活が安定して送れるように努めている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針は入所時に家族に説明している。身体機能が低下し医療行為が必要になったときは、本人・家族・医療関係者と今後の方針について話し合い、不安なく過ごせるように支援している。	入居時に事業所指針を説明し利用者・家族等の理解を得ている。医師の判断のもと重度化した時、家族等と話し合い入院や移設などの意向を確認し、利用者が穏やかに過ごせるよう支援している。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急講習を受けており、急変時や事故発生時に備えている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の開催に合わせて訓練を行っており、参加者には実際に利用者の誘導などの協力を得て訓練を実施している。評価は記録に残し課題を見つけ次回に繋げている。	運営推進会議終了後、地域代表メンバーから見守りなどの協力を得ながら避難訓練を実施し、利用者参加のもと火事ぶれ・通報・避難誘導や水消火器による消火訓練も行っている。また抜き打ちの招集訓練などを行うことで日頃より職員の防災意識を高めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活歴や価値観、性格などを配慮しその人に合わせた方法で対応している。ケアに入る際は敬意をもって接するように努めている。	利用者の生活歴や出来ること・出来ないことなどを把握し、日常生活での変化や気づきは1日2回の申し送りやノートにより共有している。一人ひとりの違いを受けとめ、自尊心やプライバシーに配慮した言葉掛けや対応で利用者の思いに寄り添いながら支援している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とは接する時間が多く持ち、信頼関係作りを心掛けている。職員は日頃から関わり持ち話しかけやすい環境づくりを努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、本人の生活レベルにあったペースで声掛けするように努めている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や本人の好みの服装を選んで頂き、おしゃれを楽しめるようにしている。家族に季節に合った衣類を準備していただいている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きな食べ物や要望を取り入れメニューを決めている。行事では出前などを取り寄せ楽しんでもらっている。食事レクなども行い楽しんでいただいている。	食事レクリエーションではラーメンや季節の料理などの行事食を提供し皆に喜ばれ、家族等にはお便りのなかで食事の様子を写真で伝えている。利用者の要望や好きなものを出るだけ取り入れ、特に献立は決めずに3食手作り提供し、ほとんどの方が完食し満足している。菊や枝豆など食材の下準備や下膳などの手伝いもある。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合った食事形態で提供し、食事・水分量は記録に残し摂取量の管理に繋げている。水分量が少ない利用者は家族と連携し好きな飲み物を準備してもらい提供することで水分量を確保できている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に利用者に応じた方法で実施している。夜間は入れ歯の洗浄・消毒を行っている。口腔ケアセットは消毒を行い清潔を保っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、誘導時間やオムツ交換のタイミングを調整し漏れや失禁などの不快感を減らせるように支援している。	利用者により自立している方、オムツ使用の方など対応が一人ひとり違い、排泄チェック表により時間やタイミングを見て声掛けしトイレ誘導している。自尊心や羞恥心に配慮しながらトイレでの見守りや介助を行い、パットやおむつ交換で不快感を減らし気持ち良く過ごせるようにしている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーションにて体を動かしたり、水分量や繊維質、乳製品などの食品をしっかり摂取できるように努力し改善している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤などを利用して楽しんでいただけている。拒否のある場合は曜日や職員を変更して工夫している。入浴中は普段聞けないような話も聞けている。	週2～3回を目安に、浴槽の跨ぎに不安ある方はリフト浴で対応し、1対1の介助で入浴している。ゆっくり温まれるよう入浴剤を使用し、リラックスした時の会話は本音を聞ける良い機会ともなっている。体調によってはシャワー浴や清拭で清潔を保つことがある。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	落ち着く環境を整え、生活習慣や体調面を考慮して臥床の提案や声掛けを行っている。居室内の温度管理を行い安眠できている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理を受けている。服薬時は声出し確認し誤薬が無いように注意している。薬が変更になった際には情報共有を行っている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夏祭りや敬老会などの季節の行事を実施し楽しめている。コロナウイルスの影響で外出はできていない。日常生活では役割をもって生活し張り合いを持っている方もいる。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの予防として外出はできていない。家族の協力の元好物のお菓子やお弁当など持参して個別に楽しめる様子もみれる。	コロナ禍のため外出はほとんど行っていないが通院時に車窓から街の様子や季節の花などを見ることが出来る数少ない機会となっている。面会も制限されたなかで毎日の体操後の物作りやビデオ鑑賞などレクリエーション活動で気分転換を図っている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が金銭管理を行っている。日用品は欲しいものがあれば立替請求している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話機を設置しており、家族と常に連絡が取れるようになっている。手紙が届いた際には返事を進めている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年はコロナウイルスの感染予防のため外出が出来ずにいるため、季節感を感じられるようにホール内の装飾物を工夫した。利用者の中には掲示物の作成に協力して楽しまれている方もいる。温度管理をこまめに行い過ごしやすい環境づくりを行っている。	利用者から時期に合わせた壁飾りを創作してもらいフロア全体で季節を感じられるようにしている。毎日2回の施設内アルコール消毒や換気、また職員は毎日の検温や手指の消毒等を徹底して行い感染症予防対策に取り組んでいる。トイレや浴室、居間兼食堂のフロアや廊下は常に清潔に保たれ、広く明るいスペースの中で趣味の刺し子やテレビを見たりしながらのんびり寛ぐ様子が見られる。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにてテレビを見たり仲の良い利用者で談笑されている様子も見られている。居室でも好きな時間が持てるように支援している。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具を設置したり、孫やペットの写真を飾り安心して過ごせるようにしている。安全な動線を確保できるように利用者と家具の位置を調整することもある。	家具やテレビ、家族の写真や使い慣れた寝具・衣服などを持ち込み、使い勝手良く居心地良い居室作りをしている。動線の確保や立ち上がり不安のある人へのセンサー設置で転倒やつまずきなどが無いよう安全に配慮している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLを確認し自立した生活が送れるように努めている。		